

ウォーターフロント地区（中央ふ頭・博多ふ頭）再整備に関する 専門家懇談会（第1回）議事要旨

1. 議題 (1)ウォーターフロント地区再整備の方向性について
(2)ウォーターフロント地区の将来イメージについて（役割、導入機能等）

2. 日時

日付：平成26年4月7日（月）

時間：10:00～11:30

3. 専門家の意見

- ・福岡市は全国的に見ても MICE(※)を推進すべき都市として高く認知されている。加えて福岡市の場合、港湾の人流機能の中で MICE が展開できるという優位性もあり、このことをもっとアピールすべきである。
※MICE(マイス)とは、企業等の会議(Meeting)、企業等が行う報奨・研修旅行(Incentive Travel)、国際機関・団体、学会等が行う国際会議(Convention)、展示会・見本市、イベント(Exhibition/Event)の頭文字を合わせた造語。多くの集客交流が見込まれるビジネスイベントなどの総称
- ・大事なことは楽しいという感覚とビジネス感覚。イベントがないときにもそれなりに人がいてウォーターフロントで賑わいがあるということが大事で、その意味では定住の機能を考えていかなければならないのではないかと思う。
- ・再整備の方向性で将来像を示す際には、この地区は楽しい場所だというインスピレーションを市民に分かりやすく打ち出す必要がある。そして継続的にプロモーションしていくセンターも必要である。
- ・MICE 機能の整備を起爆剤にし、徐々に市民が住み心地よく感じる空間を確保しながら、日常的な賑わいづくりが展開されるといったシナリオを、経済性、事業性を加味しつつ短期・中期・長期の段階構成で描いていくことが重要である。
- ・市民が喜んで足を運び、潮風を感じながら回遊できるような空間づくりが必要である。
- ・天神、博多からも近く、ウォーターフロント地区まで歩けるというキーワードが大事。それに福岡市の場合、世界的に例をみないほど、空港から近いという特徴がある。もっとこれらの優位性を活かすべきである。
- ・用件があるから行く場所となっているが、百道や地行では海辺を散歩する人が多い。周りにたくさんの人が住みたいと思えるような感覚で場づくりを考えて欲しい。
- ・海に抜ける景観や緑地や水面を生かしたオープンスペースなどの開放的な空間が必要である。
- ・バスのネットワークは充実しているが天神、博多駅とウォーターフロント地区を回遊するようなものはない。たとえば BRT や接続バス、2階建てバスのようなシンボリック性のある交通を導入し、これまでの線的なものでなく、面的なネットワークをつくり、回遊性を高めるべき。
- ・ウォーターフロント地区に、福岡の顔となるようなシンボリックなものが必要である。例えば、シンガポールならマリーナベイサンズというような代名詞となるようなもの。
- ・持続的に賑わいを持たせるためには居住者を増やすことが必要である。
- ・市民が気軽に立ち寄れる、市民のための交流拠点づくりが必要である。
- ・ウォーターフロント地区を魅力的にする仕掛けとして、エリアマネジメントの立ち上げも検討して欲しい。大阪市が特定地域の地権者から一律に負担金を徴収して、その地域のまちづくりに使う B I D のような踏み込んだ取り組みもある。既成市街地ではなく、新たに再整備していく地区ではエリアマネジメントの導入は比較的やりやすい。早い時期から公共だけではなく、民間も巻き込み仕組みを仕込んでいってほしい。

- ・ウォーターフロント地区までのアクセスが向上するだけでは不十分で、そこから域内の回遊をどう向上していくかが重要である。また、域内の回遊を考える際、外を歩いて快適な季節は限られているため、建物間をつないで回遊できるような動線も必要である。
- ・スマートフォンを活用して若者を取りこむなど、低コストかつユニークな発想で集客につながるソフト展開もできる。
- ・総括：本来持ち得ている、ウォーターフロントの親水性を活かし、人間性を取り戻す取り組みをしていくべきであり、取り組みの視点は以下の通り。
 - ① 人間性の回復
 - ・海を感じられる回遊性（コンベンションゾーンから中央ふ頭の先まで回遊できるルートを）
 - ② 近接性の回復
 - ・周辺地区（天神、博多含む）や空港とウォーターフロント地区との近接性
 - ③ 開放性の回復
 - ・視覚的開放（空間）
 - ・市民への開放（心理的バリアを取り除く）
 - ④ シンボル性の回復
 - ・景観的なシンボル性
 - ⑤ 居住性の回復
 - ・市民が親しめる機能
 - ・昼も夜も人がいる場所に（中長期的な視点で考えるべき）
 - ・住宅の整備
 - ⑥ その他
 - ・市民への情報発信拠点としてのアーバンデザインセンターの早期整備
 - ・エリアマネジメントの早い段階での導入